

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

<b>事業名</b>	基幹ロケット高度化の推進			<b>担当部局</b>	研究開発局	<b>作成責任者</b>						
<b>事業開始年度</b>	平成25年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	宇宙開発利用課	宇宙開発利用課長 上田 光幸						
<b>会計区分</b>	一般会計											
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	宇宙基本法 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構法第十八条			<b>関係する計画、通知等</b>	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構第4期中長期計画 宇宙基本計画(令和2年6月30日閣議決定) 等							
<b>主要政策・施策</b>	宇宙開発利用			<b>主要経費</b>	文教及び科学振興							
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	宇宙基本法(平成20年法律第43号)に基づき作成される「宇宙基本計画」の施策を推進するために、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が実施する基幹ロケットの打ち上げ能力の向上等のための技術開発の取り組みを推進するために要する経費に対して補助を行い、もって宇宙輸送システムに関する国の責務の遂行に寄与することを目的とする。											
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	世界トップレベルの優れた運用成果を挙げてきた基幹ロケットについて、我が国の自立的な宇宙空間への物資輸送能力を維持・向上していくため、より多様なミッションへの対応能力、ペイロード(衛星など)の搭載環境の向上等を行う。【補助率:定額】											
<b>実施方法</b>	補助											
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	<b>予算の状況</b>	当初予算	令和元年度	4,048	令和2年度	6,083	令和3年度	3,356	令和4年度	3,993	令和5年度要求	9,646
		補正予算		-		-		3,674				
		前年度から繰越し		4,278		1,340		770		2,780		
		翌年度へ繰越し		▲ 1,340		▲ 770		▲ 2,780				
		予備費等		-		-		-		-		
		計		6,986		6,653		5,020		6,773		9,646
	執行額		6,986		6,652		5,020					
	執行率(%)		100%		100%		100%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		173%		109%		71%					
	<b>令和4・5年度予算内訳</b> (単位:百万円)	<b>歳出予算目</b>	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由							
基幹ロケット高度化推進費補助金		3,993	9,646	令和2年6月30日に閣議決定された宇宙基本計画について、その工程表に沿った開発を着実に進めるために所要の経費を計上しているもの。								
計		3,993	9,646	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。								

活動内容 (アクティビティ)	基幹ロケット(H-IIA/H-IIIB)に関する国内外の衛星打上げ計画への確実な対応										
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込		
	宇宙基本計画工程表に示された政府衛星の確実な打上げ	我が国の宇宙活動の自立性の確保のため、宇宙基本計画工程表に基づき、政府衛星の着実な打上げを行ったか。(見込みは宇宙基本計画工程表に記載の基数)	活動実績		回	2	2	2	-	-	
			当初見込み		回	3	3	2	6	10	
単位当たりコスト	算出根拠				単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	基幹ロケット高度化の研究開発は、複数年度に渡る開発を実施して最終成果を創出すること、また、開発フェーズごとに必要資金が増減することから、年度ごとに単位当たりコストを算出・比較することは困難。		単位当たりコスト		-	-	-	-	-		
			計算式		/	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度		
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果において、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。  (※)主務大臣からの業務実績の評価のうち、基幹ロケット高度化の推進事業については、平成30年度からは、「Ⅲ.宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組」「3.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」「3.9.宇宙輸送システム」において評価を受けている。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。	成果実績		%	100	100	0	-	-	
			目標値		%	100	100	100	100	100	
			達成度		%	100	100	0	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の令和2年度における業務の実績に関する評価」より										
活動内容 (アクティビティ)	基幹ロケット(H-IIA/H-IIIB)に関する国内外の衛星打上げ計画への確実な対応										
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込		
	ロケット打上げサービスの国際競争力に向けた信頼性向上	基幹ロケット(H-IIA・Bロケット、イプシロンロケット)の打上げ成功率(累積)	活動実績		%	98.1	98.2	98.3	-	-	
			当初見込み		%	-	-	-	-	-	
単位当たりコスト	算出根拠				単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	基幹ロケット高度化の研究開発は、複数年度に渡る開発を実施して最終成果を創出すること、また、開発フェーズごとに必要資金が増減することから、年度ごとに単位当たりコストを算出・比較することは困難。		単位当たりコスト		-	-	-	-	-		
			計算式		/	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度		
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果において、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。  (※)主務大臣からの業務実績の評価のうち、基幹ロケット高度化の推進事業については、平成30年度からは、「Ⅲ.宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組」「3.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」「3.9.宇宙輸送システム」において評価を受けている。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。	成果実績		%	100	100	0	-	-	
			目標値		%	100	100	100	100	100	
			達成度		%	100	100	0	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の令和2年度における業務の実績に関する評価」より										

活動内容 (アクティビティ)	基幹ロケット(H-IIA/H-IIB)に関する国内外の衛星打上げ計画への確実な対応									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	ロケット打上げサービスの国際競争力に向けた信頼性向上	基幹ロケット(H-IIA・Bロケット)のオンタイム打上げ成功率(天候またはペイロード等ロケット以外の機器不具合起因による延期を除く) ※直近5年間の累積	活動実績		%	76.5	76.5	73.3	-	-
			当初見込み		%	-	-	-	-	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	基幹ロケット高度化の研究開発は、複数年度に渡る開発を実施して最終成果を創出すること、また、開発フェーズごとに必要資金が増減することから、年度ごとに単位当たりコストを算出・比較することは困難。	単位当たりコスト		-	-	-	-	-		
		計算式		/	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度	
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果において、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。  (※)主務大臣からの業務実績の評価のうち、基幹ロケット高度化の推進事業については、平成30年度からは、「Ⅲ.宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組」「3.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」「3.9.宇宙輸送システム」において評価を受けている。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。	成果実績		%	100	100	0	-	-
			目標値		%	100	100	100	100	100
			達成度		%	100	100	0	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の令和2年度における業務の実績に関する評価」より									
活動内容 (アクティビティ)	基幹ロケット(H-IIA/H-IIB)に関する国内外の衛星打上げ計画への確実な対応									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	ロケット打上げサービスの国際競争力に向けた信頼性向上	H-IIA及びH-IIBロケットの各年度ごとの打ち上げ成功率  ※目標年度は毎年度とする	活動実績		%	100	100	100	-	-
			当初見込み		%	100	100	100	100	100
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	基幹ロケット高度化の研究開発は、複数年度に渡る開発を実施して最終成果を創出すること、また、開発フェーズごとに必要資金が増減することから、年度ごとに単位当たりコストを算出・比較することは困難。	単位当たりコスト		-	-	-	-	-		
		計算式		/	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度	
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果において、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。  (※)主務大臣からの業務実績の評価のうち、基幹ロケット高度化の推進事業については、平成30年度からは、「Ⅲ.宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組」「3.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」「3.9.宇宙輸送システム」において評価を受けている。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。	成果実績		%	100	100	0	-	-
			目標値		%	100	100	100	100	100
			達成度		%	100	100	0	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の令和2年度における業務の実績に関する評価」より									

政策評価 政策評価書 政策評価書 政策評価書	政策	9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応	
	施策	政策評価書 URL	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf</a>
		該当箇所	9-5-5.9-5-6
<b>事業所管部局による点検・改善</b>			
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	宇宙基本計画(令和2年6月30日閣議決定)において、「我が国の宇宙活動の自立性の確保に向けて、H-II A/B ロケット、戦略的技術として重要な固体燃料ロケットのイプシロンロケットとともに、H3 ロケットを新たに基幹ロケットと位置付け、H3 ロケットを完成させることを含め、基幹ロケットの開発・高度化等を継続的に進める」とされている。これを踏まえ、H-II Aロケットの確実な運用のための信頼性向上に係る作業や枯渇部品の再開発、イプシロンロケットが小型衛星の打上げ需要に、幅広く、効率的に対応するための開発を実施することで宇宙基本計画の実現に貢献している。(H-II Bロケットは令和2年に運用を終了)
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	ロケットの研究や開発に関して、高い専門性が必要であり民間等では実施できないものを国が実施するものである。
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	宇宙基本計画の実現に必要な取り組みであり、政策体系の中で優先度が高い。
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	基幹ロケットの高度化については、当初開発時に選定した事業者が有する知見が必要となる場合など、競争的に事業者を選定することは困難なものもあるが、原則として一般競争入札等によることとするなど、競争性・透明性を確保する取組みを続けている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	さらに、一般競争入札等により契約する場合であっても、入札公告前に、チェックシートを用いて競争性を妨げる要因がないかの自己点検を行うほか、調達案件情報及び参入ガイド等の情報発信、配布等を実施することで、新規参入企業の発掘や参入促進の取組をおこなっている。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	我が国の宇宙分野における自立性を確保することなどを目的に、国として実施すべき取組であり、負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	JAXAにおいて使途・費目の精査を行って締結した契約に基づき、適切に取組が実施されており、資金の流れは中間段階でも合理的である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	中長期目標に基づき策定された中長期計画の履行に必要な取組を実施するために締結する契約に関して、JAXAにおいて使途・費目の精査を行っていることから、費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	令和3年度の試験機打上げが延期になったことに伴い、周辺設備や環境の整備なども含む追加対策が必要となったため等であり妥当である。
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	・プロジェクトの節目で実施する審査会において、コスト評価を実施しており、効率的な事業遂行に努めている。 ・JAXAでは、成果報告書、技術資料、調達仕様書等、事業に係る様々な資料を一つの文書体系にまとめて管理・共有することで、業務の標準化・効率化を図っている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	独立行政法人通則法に基づき実施された各年度における業務の実績に関する評価において、宇宙輸送システムは平成25年度から令和2年度の間でS評価を4回、A評価を2回受けるなど、着実に成果を出している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	宇宙・航空分野の研究開発は高度な専門性が必要であるため、その知見を有するJAXAにおいて実施することで実効性の高い手段となっている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当初見込み通り又は当初見込みを上回る実績を上げており、活動実績は見込みに見合ったものである。
整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	独立行政法人通則法に基づき実施された各年度における業務の実績に関する評価における「民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組」の項目において標準評価以上の評価を受けており、整備された施設や成果物は十分に活用されている。	

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				-
	事業番号			事業名	
点検・改善結果	点検結果	<p>・基幹ロケットの高度化については、当初開発時に選定した事業者が有する知見が必要となる場合など、競争的に事業者を選定することは困難なものもあるが、原則として一般競争入札等によることとするなど、競争性・透明性を確保する取組みを続けている。</p> <p>さらに、一般競争入札等により契約する場合であっても、入札公告前に、チェックシートを用いて競争性を妨げる要因がないかの自己点検を行うほか、調達案件情報及び参入ガイド等の情報発信、配布等を実施することで、新規参入企業の発掘や参入促進の取組をおこなっている。</p> <p>・独立行政法人通則法に基づき実施された各年度における業務の実績に関する評価において、宇宙輸送システムは標準以上の評価を受けるなど、着実に成果を出している。</p>			
	改善の方向性	<p>契約の競争性、公平性、透明性を確保する観点から、引き続き、入札公告前のチェックシートを用いた競争性確保の自己点検、調達案件情報及び参入ガイド等の情報発信、配布等を実施することで、新規参入企業の発掘や参入促進に努めていく。</p>			
<b>外部有識者の所見</b>					
外部有識者による点検対象外					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
現状通り	この事業は、事業所管部局による自己点検及び行政事業レビュー推進チームによる点検の結果を踏まえ、特段の見直しは要しないものと考えられる。				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
現状通り	-				
<b>備考</b>					
-					
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>					
平成23年度	-				
平成24年度	-				
平成25年度	-				
平成26年度	26-0295				
平成27年度	27-0285				
平成28年度	28-0282				
平成29年度	288				
平成30年度	264				
令和元年度	文部科学省 - 0258				
令和2年度	文部科学省 0260				
令和3年度					

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省  
5,020百万円

事業概要  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構が実施する基幹ロケットの打ち上げ能力の向上等のための技術開発の取り組みを推進するために要する経費に対して補助。

※詳細は国庫に課税

[交付]

[A]  
国立研究開発法人  
宇宙航空研究開発機構  
5,010百万円

事業概要  
国産ロケットの高度化開発等。

【贈与契約(全互換等)等】

[B]  
民間企業等(19社)  
5,010百万円

事業概要  
国産ロケットの高度化開発等。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

	A.			B.		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
<b>費目・使途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	業務費	国産ロケットの高度化開発等	5,010	役務	イプシロンSロケット ロケットシステム開発	3,075
		計		5,010	計	

**支出先上位10者リスト**

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構	9012405001241	国産ロケットの高度化開発 等	5,010	補助金等交付	-	-	

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	イプシロンSロケット ロケットシステム開発を行う。 契約時契約方式【随意契約(企画競争)】契約期間:2020年度~2023年度	3,075	その他	-	-	
2	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	H3ロケット固体ロケットブースタ及び火工品開発を行う。 契約時契約方式【随意契約(公募)】契約期間:2014年度~2022年度	80	その他	-	-	
3	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	ロケット専用治工具等の維持(その14のウ)を行う。	73	随意契約(その他)		-	
4	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	火工品製造設備の部分更新を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2019年度~2021年度	62	その他	-	-	
5	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	2021年度 固体ロケットモータスラグ低減技術の研究を行う。	34	随意契約(その他)		-	
6	株式会社IHIエアロスペース	4010601031653	イプシロン Sロケット キックステージ搭載形態検討を行う。	27	随意契約(その他)		-	
7	三菱重工業株式会社	8010401050387	ロケット専用治工具等の維持(その13のア)を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2021年度	366	その他	-	-	
8	三菱重工業株式会社	8010401050387	H3ロケット コンステレーション対応開発を行う。	210	随意契約(その他)		-	
9	三菱重工業株式会社	8010401050387	Sコマンドシステム飛行実証を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2018年度~2021年度	166	その他	-	-	
10	三菱重工業株式会社	8010401050387	H3ロケット信頼性評価を行う。	140	随意契約(その他)		-	
11	三菱重工業株式会社	8010401050387	H3ロケット射点設備の整備(そのア)を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2016年度~2020年度	49	その他	-	-	
12	三菱重工業株式会社	8010401050387	H3ロケット用1段エンジンの開発-エンジンシステムを行う。 契約時契約方式【随意契約(公募)】契約期間:2014年度~2022年度	41	その他	-	-	
13	三菱重工業株式会社	8010401050387	2020~2021年度 M型ロケット発射装置(イプシロンロケット対応)の改修他作業を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020	26	その他	-	-	
14	三菱重工業株式会社	8010401050387	H3 ロケット射点設備の整備(そのアの2)を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2022年度	12	その他	-	-	



15	NECスペーステクノロジー株式会社	1012401010393	冗長複合航法システム(RINS)の開発を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2019年度~2022年度	180	その他	-	-
16	NECスペーステクノロジー株式会社	1012401010393	Sコマンドシステム用CDR飛行実証後改修を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2021年度	37	その他	-	-
17	NECスペーステクノロジー株式会社	1012401010393	強化型イブシロン6号機RINS飛行実証 VHFテレメータ送信系関連整備を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2021年度	10	その他	-	-
18	NECスペーステクノロジー株式会社	1012401010393	H3ロケットSコマンドシステム射場計測支援を行う。	2	随意契約(その他)	-	-
19	日本電気株式会社	7010401022916	Sコマンドシステム開発飛行実証における射場整備作業支援(そのイ)を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2021年度	48	その他	-	-
20	日本電気株式会社	7010401022916	内之浦射点近傍コマンド局の整備を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020年度~2022年度	46	その他	-	-
21	日本電気株式会社	7010401022916	Sコマンドシステム開発インテグレーション試験及び飛行実証支援を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2019年度~2021年度	14	その他	-	-
22	日本電気株式会社	7010401022916	2021年度イブシロンSロケット開発に係る発射回線設備他の基本設計を行う。	10	随意契約(その他)	-	-
23	日本電気株式会社	7010401022916	イブシロンSロケット対応開発 イブシロンロケット5号機射場系追尾試験支援作業(そのア)を行う。	10	随意契約(その他)	-	-
24	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	冗長複合航法システム(RINS)ノイブシロンS対応射点電波系設備の整備を行う。	38	一般競争契約(最低価格)	1	-
25	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	イブシロンSロケット打上作業管理システム(eS-LDMS)の整備(その1)を行う。契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2020	32	その他	-	-
26	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	イブシロンSロケット及び冗長複合航法システム(RINS)対応飛行安全管理システムの改修(その1)を行う。	23	随意契約(その他)	-	-
27	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	2021年度 基幹ロケット打上げに係る射場系射場整備作業を行う。	6	随意契約(公募)	-	-
28	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	射場系サーバイブシロンSロケット対応改修を行う。	4	随意契約(その他)	-	-

29	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	イプシロンSロケット対応開発 イプシロンロケット5号機射場系追尾試験支援作業(そのイ)を行う。	1	随意契約 (少額)			-	
30	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	イプシロンSロケット対応開発 イプシロンロケット5号機射場系追尾試験支援作業(そのイの2)を行う。	1	随意契約 (その他)			-	
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載								チェック	<input checked="" type="checkbox"/>

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-		-	-	-

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	宇宙技術開発株式会社	3011201000611	2021年度 飛行安全管制システム(RASCA)の維持を行う。	0.3	随意契約 (その他)		-	
2	株式会社IHI	4010601031604	H3ロケット用上段エンジンの開発-ターボポンプを行う。 契約時契約方式【随意契約(公募)】契約期間:2014年度~2022年度	54	その他	-	-	
3	三菱電機株式会社	4010001008772	追跡管制ネットワークシステム イプシロンSロケット追尾機能付加改修を行う。	34	随意契約 (その他)		-	
4	株式会社エー・アンド・デイ	5013301001710	田代試験場 常圧燃焼試験設備 計測装置の製作を行う。	28	随意契約 (その他)		-	
5	住友精密工業株式会社	4140001049416	冗長MEMS IMU(MARIN)の開発を行う。 契約時契約方式【随意契約(その他)】契約期間:2019年度~2022年度	14	その他	-	-	
6	株式会社アムテックス	4010901000754	RF信号記録再生装置(3ch出力)の調達を行う。	6	随意契約 (その他)		-	
7	株式会社アムテックス	4010901000754	RF信号記録再生装置(3ch出力)の賃貸借(レンタル)を行う。	5	随意契約 (その他)		-	
8	株式会社アムテックス	4010901000754	ロケット航法センサ用IMUシミュレータの仕様変更改修を行う。 契約時契約方式【随意契約(少額)】契約期間:2020年度~2021年度	2	その他	-	-	